

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 研究期間 平成20年度～平成22年度
5. 課題番号 2 0 7 2 0 0 1 1
6. 研究課題名 近世中国におけるムスリムの人生儀礼研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
7 0 4 4 7 6 7 1	フリガナ サトウ ミノル 佐藤 実	比較文化学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

近世における中国ムスリムの人生儀礼研究の具体的な分析として、劉智が著した『天方典礼』の婚姻篇、喪葬篇を引き続き検討しているが、今年度は山東省のモスクを中心としたムスリムコミュニティの調査を行い、文献からは見えてこない現代中国におけるムスリムの現状理解をはかり、文献理解の一助とした。

今回の調査地である山東省の済寧は、本研究が対象としている近世中国において、ムスリム教育の拠点となった土地である。当時、とりわけペルシア語文献を重視した教育を行っていたことで有名である。現在はペルシア語にかんしてはほとんど講習されていなかったが、東大寺モスクのアホン(宗教指導者)が、英語学習によって中国ムスリムの宗教活動が海外に広がることを望んでいたことが印象的であった。

また海外のムスリムからは中国ムスリムの宗教生活がルーズであると非難されることがままあるが、喪礼はきちんとシャリーアにしたがって行っているということを強く主張していた。人生儀礼のなかでも喪礼を大切にす姿勢がみてとれた。

10. キーワード

- | | | |
|--------|-----------|----------|
| (1) 中国 | (2) イスラーム | (3) 人生儀礼 |
| (4) 回儒 | (5) 劉智 | (6) 天方典礼 |
| (7) | (8) | (裏面に続く) |